
Pioneering New Breakthroughs in Electronics



2020年3月期

決算説明会



株式会社 大真空

トピックス

創業60周年

期末配当：15円を予定
(普通配当：5円 記念配当：10円)

長期計画「OCEAN+2戦略」を策定

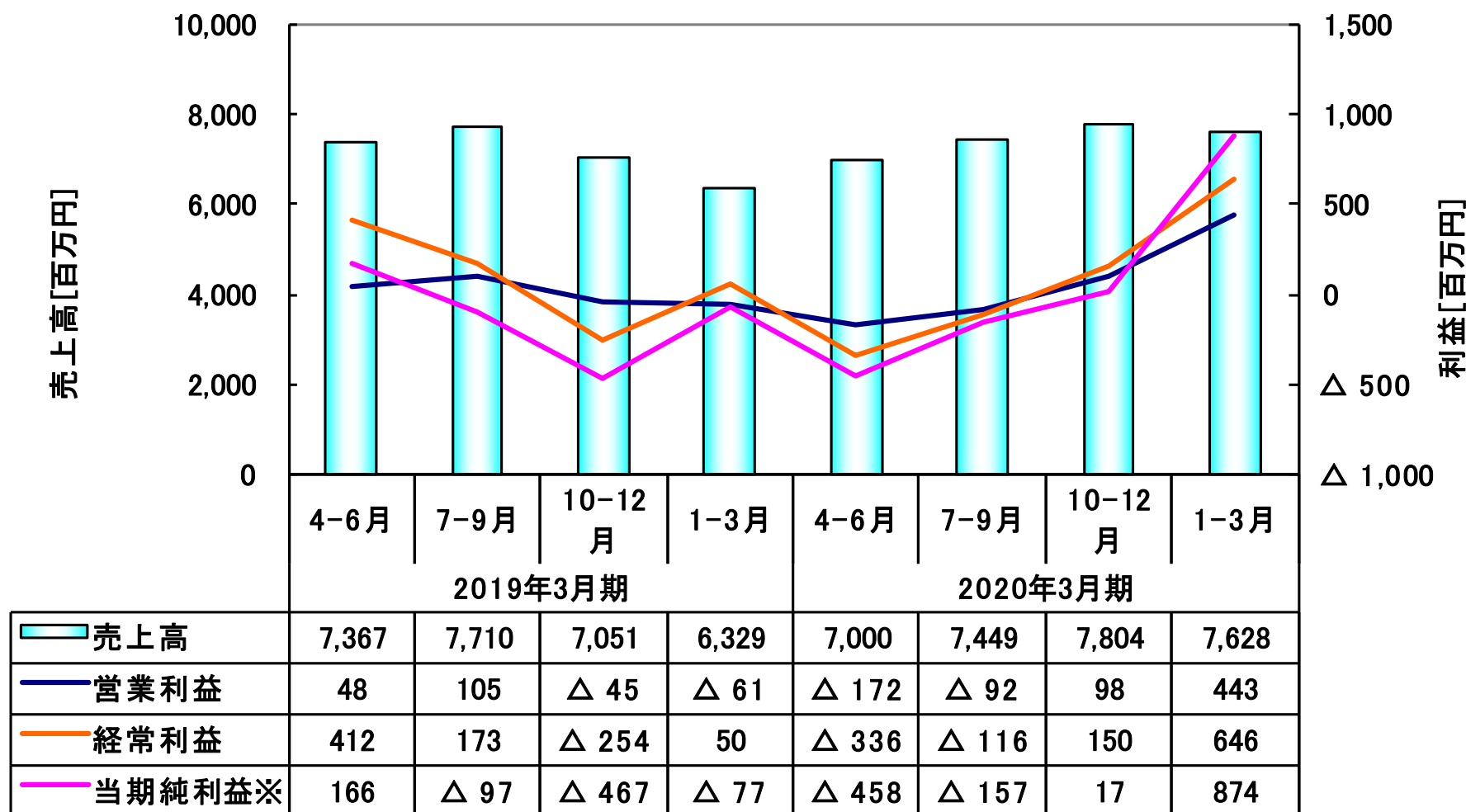
Ark.3Gシリーズが
2019年度グッドデザイン賞を受賞

業績＜連結＞

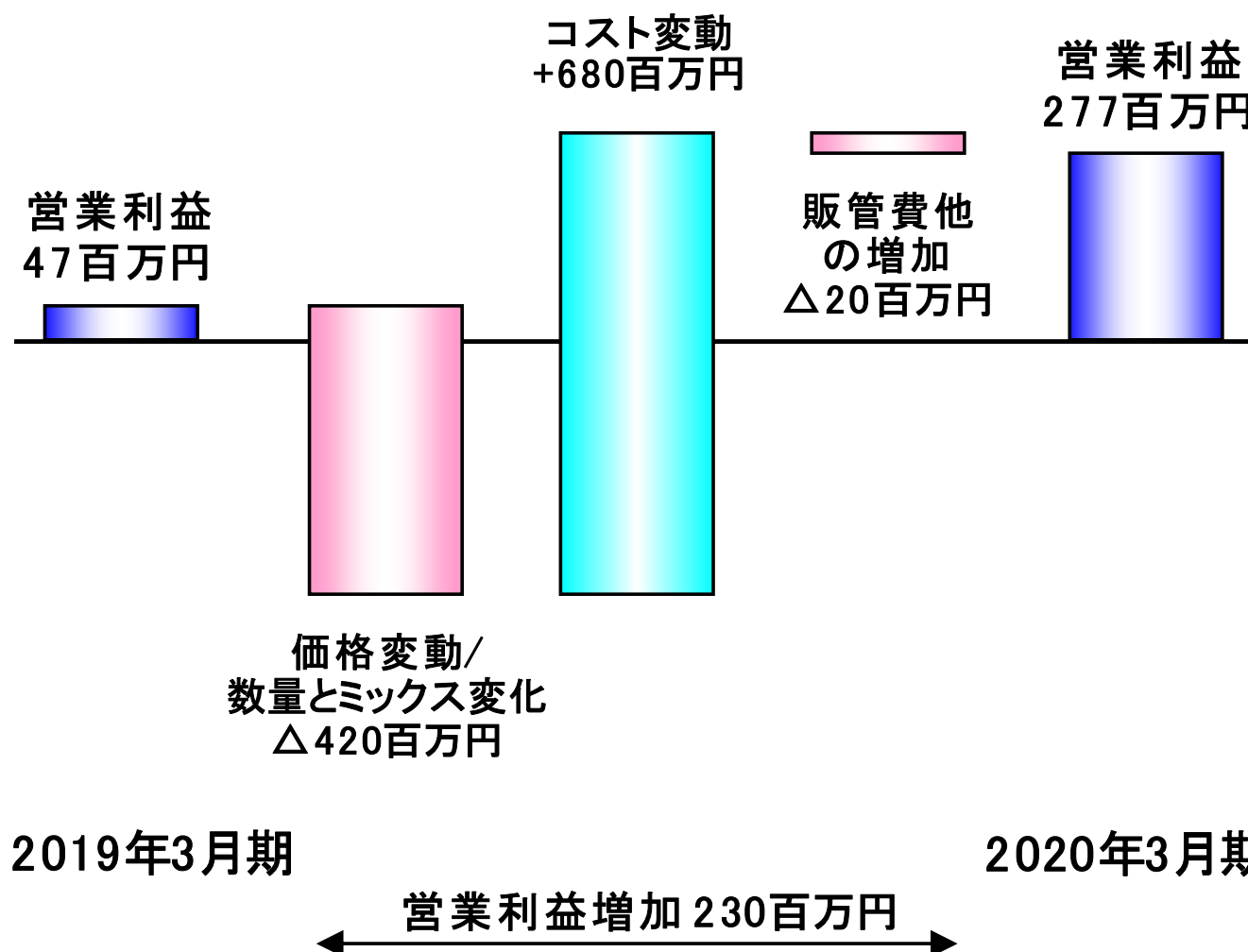
単位：百万円

	2019年3月期	2020年3月期	前期比	
			増減	増減率
売上高	28,457	29,881	1,424 ↑	5.0%
営業利益	47	277	230 ↑	488.9%
経常利益	381	344	△ 37 ↓	△ 9.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 475	276	751 ↑	－
1株当たり当期純利益(円)	△ 58.95	34.23	93.18 ↑	－
総資産	58,431	62,995	4,564 ↑	7.8%
純資産	30,566	30,180	△ 386 ↓	△ 1.3%
株主資本比率(%)	43.6	39.8	△ 3.8ポイント ↓	－
1株当たり純資産(円)	3,157.37	3,106.42	△ 50.95 ↓	△ 1.6%
USD期末レート(円)	110.99	108.83	△ 2.16 ↓	－
USD平均レート(円)	110.92	108.70	△ 2.22 ↓	－

四半期業績＜連結＞



損益分析＜連結＞



機種別販売実績 <連結>

単位：百万円

	2019年3月期	2020年3月期	前期比
一般水晶振動子	13,622	14,239	5% ↑
音叉型水晶振動子	2,950	2,911	△ 1% ↓
水晶応用製品	10,562	11,247	6% ↑

- ◆ 温度センサ内蔵水晶振動子やTCXOの増加などにより、一般水晶振動子と水晶応用製品が増加

用途別販売実績 <連結>

単位：%

用途別（構成比）	2019年3月期	2020年3月期	前期比
通信	36	41	21% ↑
カーエレ	31	27	△ 8% ↓
民生	19	19	4% ↑
産業	12	11	△ 5% ↓

※前期比は絶対額の増減率

◆中国スマホが堅調に推移し、通信分野は2桁のプラス

地域別販売実績 <連結>

単位：%

地域別（構成比）	2019年3月期	2020年3月期	前期比
日本	16	13	△ 13% ↓
アジア	68	73	13% ↑
北米	7	5	△ 15% ↓
欧州	10	9	△ 7% ↓

※前期比は絶対額の増減率

海外売上比率	84	87	3ポイント ↑
海外生産比率	56	55	△1ポイント ↓

◆中国を中心に通信関連が増加し、アジアでの販売が2桁のプラス

加高電子

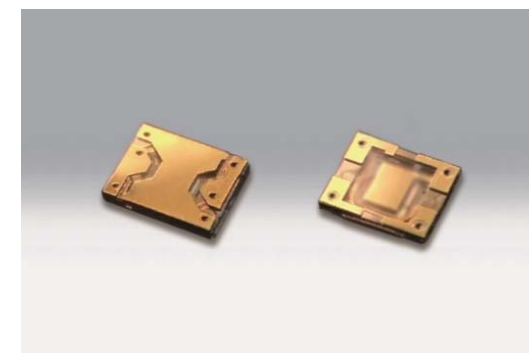


設備投資・減価償却費 研究開発費<連結>

単位：百万円

	2019年3月期	2020年3月期	増減
設備投資	2,484	4,047	1,563 ↑
減価償却費	2,801	2,582	△ 219 ↓
研究開発費	1,716	1,907	191 ↑

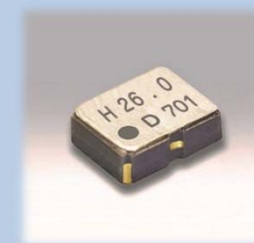
◆ Arkh.3Gを中心に小型水晶振動子などの能力増強





足元の状況【通信】

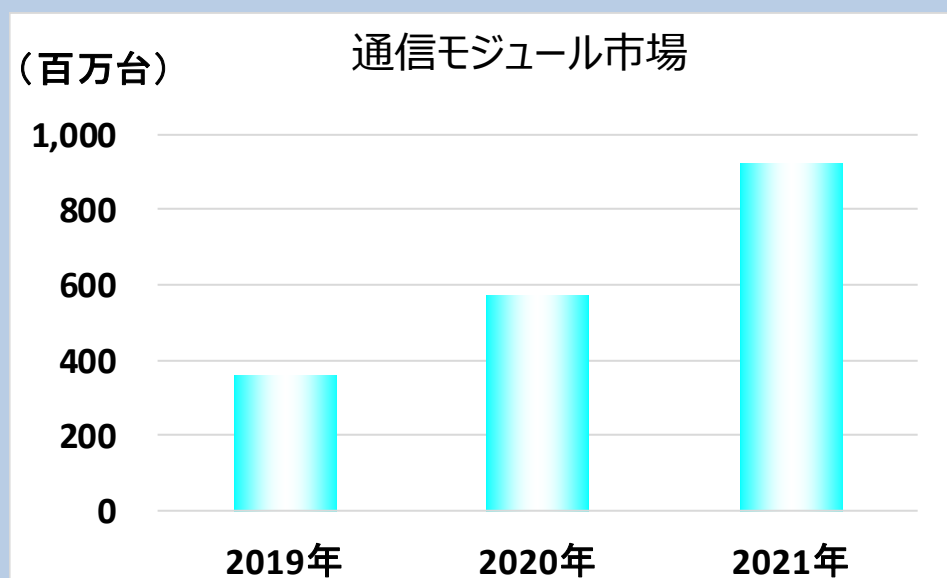
- ・NB-IoTなどの無線モジュール向けが堅調に推移
- ・新型コロナウイルスの影響でスマホ端末の生産は弱含み
- ・TCXOはタイトな需給が継続





今後のマーケット動向【通信】

- ・通信モジュールやWiFiモジュール市場が堅調に推移



出展：ABI Research

- ・米中貿易摩擦を背景に、スマホ勢力図が変わる？

今後の取り組み【通信】

- ・無線モジュール向けに
小型/高周波水晶振動子、TCXOを拡販
- ・適切な価格設定



足元の状況

【カーエレクトロニクス】

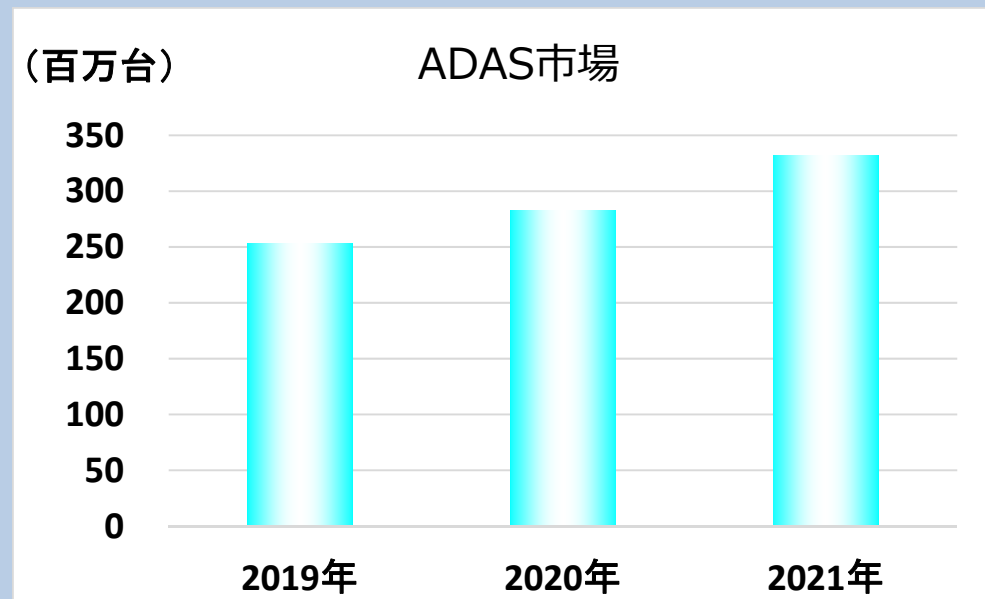


- ・自動運転に向けてADASやV2Xの拡大など新機能増加により員数は増加傾向
- ・新型コロナウイルスの影響が顕著であり、低調に推移
- ・中国では公共交通機関での新型コロナウイルス感染リスクを回避するため自動車の販売が増加傾向

今後のマーケット動向 【カーエレクトロニクス】



- ・CASEをキーワードに自動車の概念が変化



※当社調べ

- ・ADAS向けに自動運転「LEVELⅢ」以上の製品需要が高まる

今後の取り組み 【カーエレクトロニクス】

- ・高精度/高安定/高温度などに対応した新機能向けの製品を拡販
- ・販売戦略の強化と徹底





足元の状況【民生】

- ・テレワークやステイホームの影響でPCやゲーム関連機器が一時的に増加
- ・ワイヤレスイヤホンは堅調に推移
- ・小型の音叉型水晶振動子はタイトな需給が継続





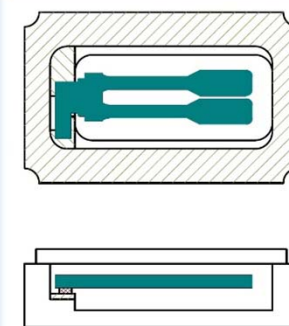
今後のマーケット動向【民生】

- ・ワイヤレスイヤホンは2桁の成長率を見込む
- ・スマートウォッチやSSDマーケットも拡大見込み



今後の取り組み【民生】

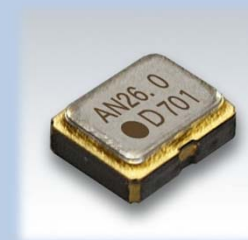
- ・さまざまなアプリケーションに対し販売戦略を強化
- ・コスト競争力に優れた
新しい製品の拡販に注力
- ・小型音叉型水晶振動子の
増産対応



足元の状況【産業】



- ・アジア圏で水道やガスのスマートメータを導入する動きが加速
- ・新型コロナウイルスの影響で工場の稼働が低下
- ・米中貿易摩擦の影響も継続し、底這圏で推移

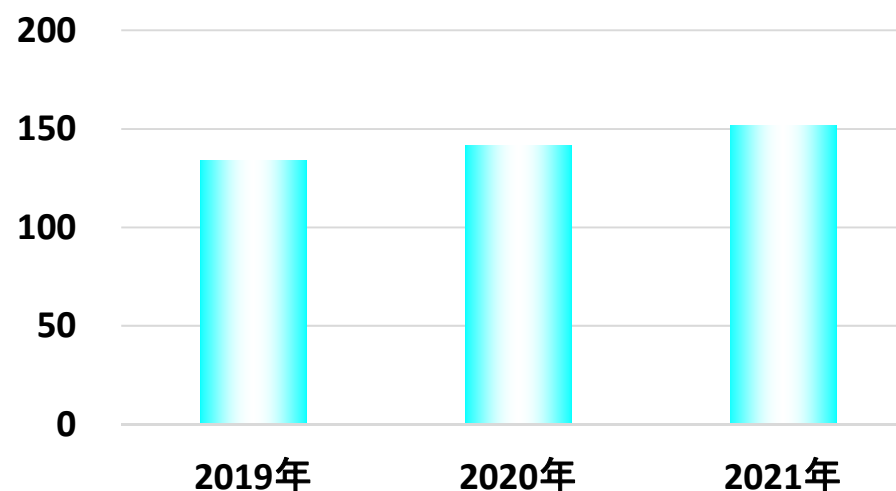




今後のマーケット動向【産業】

- ・血糖値計、電子棚札、信用照会端末など
水晶デバイスマーケットの裾野が広がる

(百万台) 血糖値計、電子棚札、信用照会端末の合計



※当社調べ

今後の取り組み【産業】

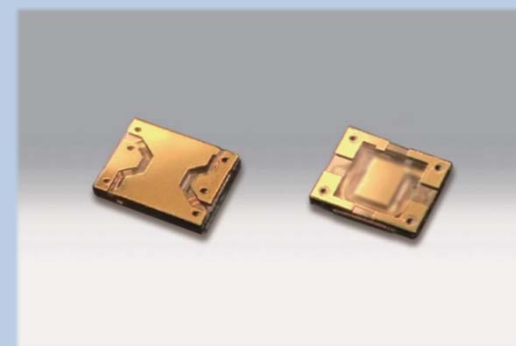
- ・欧米を中心に新規顧客を獲得
- ・高精度製品を
5G基地局向けに注力



OCEAN+2戦略【One】

1社供給

- ・Ark.3G水晶振動子
⇒ 個人認証向けに本格量産スタート
- ・Ark.3G差動出力水晶発振器
⇒ 光通信向けに量産スタート
- ・Ark.3Gのチップセット内蔵
⇒ 光通信関連からスタート



OCEAN+2戦略【Cost】

低コスト域への挑戦

- ・1.2×1.0mmで直材費を大幅に低減した製品を開発
⇒ Arkh.3Gシリーズの技術を踏襲しつつ有機性フィルムを使用した新しいパッケージ技術により低コスト化を実現
(5/7 ニュースリリース)
⇒ サンプル供給スタート (7月～)
- ・5G/IoTマーケットでもコストを追求した製品を準備
⇒ Arkh.4G/5G...

OCEAN+2戦略【Element】

材料ビジネス

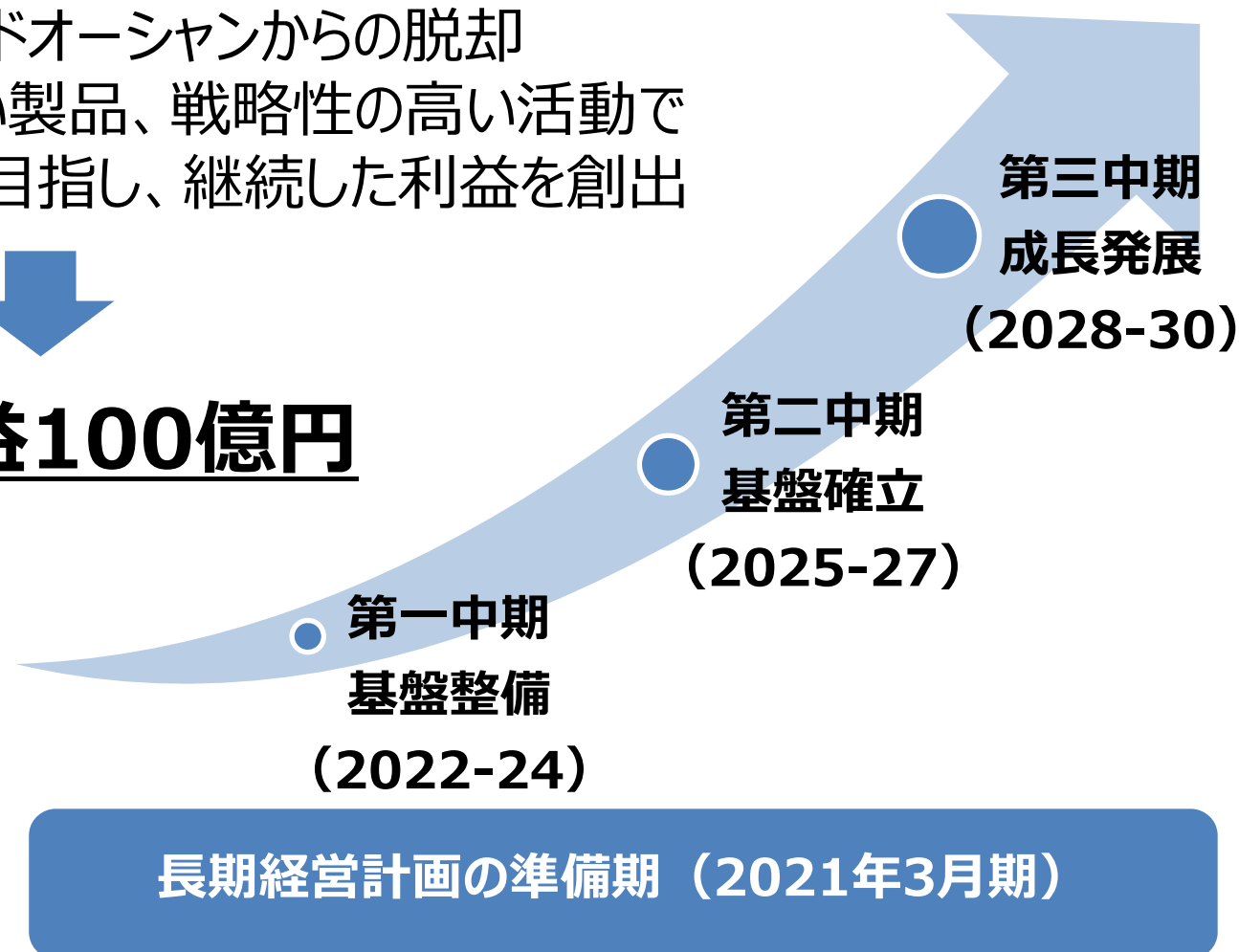
- ・ウェハの大判化
⇒ 6inchの量産化をターゲットに始動
- ・ウェハの面精度向上
⇒ 量産装置を導入（6月～）
- ・世界最高Q値の人工水晶育成を目指す
⇒ 海外の競合メーカーと差別化

OCEAN+2戦略

- ・最終ゴールは、レッドオーシャンからの脱却
- ・競争優位性の高い製品、戦略性の高い活動でブルーオーシャンを目指し、継続した利益を創出



営業利益100億円



タイミングデバイス業界 利益率No.1企業へ





今期の業績などの予想につきましては、現時点で得られた情報に基づき算出していますが、不確定な要素を含んでおります。業況の変化などにより、業績予想とは違った結果になりうることをご承知おきください。